

島根大学医学部内科学講座内科学第四医局報

# 道



~令和5年秋号~

2023年11月 天龍寺 曹源池庭園

# 『道』

この道を行けば  
どうなるものか  
危ぶむ無かれ  
危ぶめば道はなし  
踏み出せば  
その一足が道となり  
その一足が道となる  
迷わず行けよ  
行けばわかるさ

## ～ タイトル『道』の由来について ～

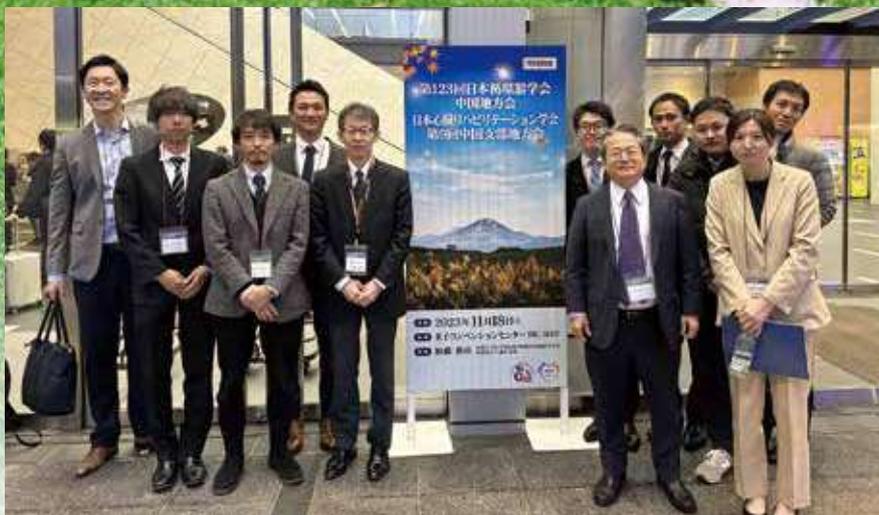
『道』というタイトルの詩…。元々は、一休禅師の言葉だといわれていますが、一般にはアントニオ猪木が引退セレモニーのリング上で、ファンに送った最後のメッセージとして知られています。

田邊教授は、何か新しいことにチャレンジするとき、いつもこの詩を思い浮かべ、そして新しい道を切り開かんとする若者に、この詩を贈ってきたそうです。

島根大学医学部内科学講座第四も、常に前向きにチャレンジすることを忘れず、ただひたすらに医師としての『道』を進んでいこう…そういう想いを込めて、この『道』というタイトルを選びました。

# 教授挨拶

内科学講座内科学第四  
教授 田邊 一明



2023年11月 日本循環器学会中国地方会（米子）にて

皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。長く暑い夏から秋の気配を感じる暇もなく、一気に季節が進みました。2023年夏以降は平常を取り戻し、何でも4年振りですが、学生・研修医向けの医局説明会を開催して対面の手応えを感じました。来春は循環器内科には3名の研修医が入局してくれます。一方で、サッカー部OB戦ではイメージしたプレーと現実の違いに愕然とし、時間の流れを感じました。

遡って2020年、コロナ禍の始まり、臨床実習の学生が病院立ち入り禁止となりました。時を同じくして、一流ジャーナルにコロナとキーワードがあれば論文投稿と同時に掲載、という時期でもありました。病院に入れなくなった臨床実習の学生に出した課題は、「コロナに関する論文を読んで、自分がコロナの専門家のつもりでプレゼンしなさい」というものでした。最初のグループに折角だから英語でプレゼンします、という



2023年7月 医局説明会



2023年9月 サッカー部OB戦



2023年9月 3年生講座配属



2023年10月 Echo Heart Izumo開催

学生や岩田健太郎先生張りに原稿も見ずに面白いプレゼンをする学生がおり、彼らの潜在能力に驚かされました。その中でコロナ感染症の収束のシミュレーションに関する論文を披露してくれたのが、緊急事態宣言などの隔離期間と感染の波を繰り返しながら3年で収束する、というものでした。振り返ればその通りだったわけですが、当時はこのシミュレーションは信じたくない、というのが私の思いでした（もっと早く終わってほしい）。正常性バイアスが働き、大したことではないだろう、が大したことになった時間、「自分は何ができるか」、「自分は何を大事にしているか」を考えさせられました。

今から20年以上前（神戸中央市民病院時代）、患者さんがしみじみと言われました。「先生、退職したらどこか旅行しようなどと考えたらだめですよ。その時は身体が動かんようになります（行けるときに行っとかな）」。当時の私はまだ40歳代で直明けに救急当番しても疲れな時代でした。目の前にある課題への取り組みで日々精一杯であり、人生の先輩からの有り難い言葉は引き出しの中にしまっておりました。コロナ禍を経て、その言葉がしばらく開けていなかった引き出しから飛び出してきたのです。この先、行ける学会、招待されたパーティー、食事会、全部行って、人に会おう、です。2023年11月4日には4年ぶりの集合形式

での内科学第四同門会総会・懇親会を開催することができました。お忙しい中、お集まりいただいた先生方、ご都合で参加できなくても医局のことを考えていただいた先生方、全国でご活躍の同門の先生方、いつもありがとうございます。またお会いできる機会を楽しみにしています。

循環器内科としましては、2023年12月にTAVI通算200例に到達し、今年に開始しましたMitraClipも5例を無事に行うことができました。「自分は背中で見せたい」と日々取り組んできましたが、残りの時間を自分の技術や経験の「継承」の時間として教育していきたいと思っています。



2023年12月 TAVI通算200例到達

## 腎臓内科の取り組みにつつまして

腎臓内科教授 神田 武志



来年度（令和6年度）の腎臓内科の取り組みにつつましてご報告致します。診療面ではまず、慢性腎臓病、高血圧診療を中心とした高齢化対策を推進して参ります。透析導

入患者の主要原疾患の第1位は糖尿病性腎症ですが、近年、腎硬化症が慢性糸球体腎炎に代わって第2位となっています。腎硬化症は加齢、高血圧により進展します。島根県内の高血圧有病率は高齢者の50%以上であり、高齢化率の高い島根県では腎硬化症による透析導入率が全国よりも高く、今後更に重要になってくる

と考えられます。地域連携としてかかりつけの先生方、腎臓専門医の二人主治医体制で管理栄養士、運動療法士、腎臓病療養指導士等コメディカルの方々と協力しながら早期介入、集学的治療をすすめ透析予防をすすめていきたいと考えています。

教育、診療面については県内の腎臓専門医、隣県の山口県の腎臓専門医の先生方と協力しながらWEBで症例検討会を行って参ります。残念ながら両県とも腎臓内科医が不足しており、皆でディスカッションを行い病理の先生方のご協力を仰ぎながら症例を共有することにより若手医師の診療レベルの向上を図って参ります。

また、研究面では統合腎疾患制御研究・開発プログラム（Program for Integrated Kidney Research and Advance: IKRA）が発足致しました。糖尿病性腎症、ループス腎炎、腎移植など腎臓研究、診療を専門とす

る内分泌代謝内科、総合診療科、泌尿器科、膠原病内科、臨床検査科、腎臓内科に加えて順天堂大学腎・高血圧内科から上田誠二先生の研究グループをお招きし、腎臓の老化制御を目的とした研究を推進して参ります。今後とも腎臓内科にご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 業績

### 論文・著書・総説 (2023年春号以降掲載、掲載決定分)

1. Fukunaga S, Itoga K, Sonoda H, Hoshino Y, Yoshimura R, Egawa M, Ito T, Tanabe K. Cystatin C as a potential blood biomarker for sarcoidosis: a case report. *Cureus* 2023;15 (6): e40304
2. Sato K, Seo Y, Ishizu T, Albakaa NK, Izumo M, Okada A, Izumi C, Inami S, Takeda Y, Onishi T, Izumi Y, Kumagai A, Fukuda T, Takahashi N, Kitai T, Iwano H, Sugawara S, Akasaka K, Harada K, Masaoka Y, Kusunose K, Tanabe K, Sakamoto T, Takamura T, Ieda M. Cardiac reversibility and survival after transcatheter aortic valve implantation in patients with low-gradient aortic stenosis. *J Am Heart Assoc* 2023;12:e029717
3. Kawanami Y, Kagawa Y, Endo A, Tanabe K. A case of IgG4-related pericarditis. *Eur Heart J Case Rep* 2023;7 (9):1-2
4. Tanabe K, Tanabe J. Role of echocardiography in patients treated with immune checkpoints inhibitors. *J Echocardiogr* 2023;21 (4):145-148
5. Kawahara H, Endo A, Uchida K, Tanabe K. Prognostic role of apolipoproteins on long-term major adverse cardiac events after percutaneous coronary intervention. *Cardiovasc Revasc Med* (published online:Oct 21, 2023)
6. Morita Y, Kashima Y, Yasuda Y, Kanno D, Hachinohe D, Sugie T, Endo A, Fujita T, Tanabe K. Burr entrapment in a percutaneous coronary intervention during rotational atherectomy: an experience with 3195 cases. *J Invasive Cardiol* 2023;35 (10)
7. Kojima D, Yamaguchi S, Hashiguchi A, Hayashi K, Uchiyama K, Yoshimoto N, Adachi K, Nakayama T, Nishioka K, Tajima T, Morimoto K, Yoshino J, Yoshida T, Monkawa T, Kanda T, Itoh H. Case report: Importance of early and continuous tocilizumab therapy in nephrotic syndrome associated with idiopathic multicentric Castleman disease: A case series. *Front Med (Lausanne)*. 2023 Jan 9;9:1037032.
8. Takahashi R, Uchiyama K, Washida N, Shibagaki K, Yanai A, Nakayama T, Nagashima K, Sato Y, Kanda T, Itoh H. Mean annual intradialytic blood pressure decline and cardiovascular events in Japanese patients on maintenance hemodialysis. *Hypertens Res*. 2023 Feb 22
9. Oshima Y, Wakino S, Kanda T, Tajima T, Itoh T, Uchiyama K, Yoshimoto K, Sasabe J, Yasui M, Itoh H. Sodium benzoate attenuates 2,8-dihydroxyadenine nephropathy by inhibiting monocyte/macrophage TNF- $\alpha$  expression. *Sci Rep*. 2023 Feb 27;13 (1):3331
10. Nakayama T, Yamaguchi S, Hayashi K, Uchiyama K, Tajima T, Azegami T, Morimoto K, Yoshida T, Yoshino J, Monkawa T, Kanda T, Itoh H. Compared effectiveness of sodium zirconium cyclosilicate and calcium polystyrene sulfonate on hyperkalemia in patients with chronic kidney disease. *Front Med (Lausanne)*. 2023 Mar 6;10:1137981
11. Ito W, Uchiyama K, Mitsuno R, Sugita E, Nakayama T, Ryuzaki T, Takahashi R, Katsumata Y, Hayashi

- K, Kanda T, Washida N, Sato K, Itoh H. Correlation between acylcarnitine/free carnitine ratio and cardiopulmonary exercise test parameters in patients with incident dialysis. *Front Physiol.* 2023 Mar 7;14:1155281.
12. Tonomura S, Uchiyama K, Nakayama T, Mitsuno R, Kojima D, Hama EY, Nagasaka T, Nishimura ES, Kusahana E, Takahashi R, Yoshimoto N, Yamaguchi S, Morimoto K, Yoshida T, Hayashi K, Kanda T, Washida N, Itoh H. Clinical significance of serum urea-to-creatinine ratio in patients undergoing peritoneal dialysis. *Ther Apher Dial.* 2023 Jun 22.
  13. Mitsuno R, Uchiyama K, Nakayama T, Takahashi R, Yoshimoto N, Yamaguchi S, Washida N, Kanda T, Hayashi K, Itoh H. Comparison of the effects of angiotensin receptor-neprilysin inhibitors and thiazide diuretic/renin-angiotensin system inhibitor combination therapy in hypertensive patients: a retrospective cohort study. *J Hum Hypertens.* 2023 Jul 24.
  14. Yoshimura N, Yamada K, Ono T, Notoya M, Yukioka H, Takahashi R, Wakino S, Kanda T, Itoh H. N-methyl-2-pyridone-5-carboxamide (N-Me-2PY) has potent anti-fibrotic and anti-inflammatory activity in a fibrotic kidney model: is it an old uremic toxin? *Clinical and Experimental Nephrology.* 2023 Jul 25.
  15. Nishioka K, Yamaguchi S, Hashiguchi A, Yoshimoto N, Tajima T, Yasuda I, Uchiyama K, Kaneko K, Aso M, Yoshino J, Monkawa T, Kanda T, Hayashi K, Itoh H. Antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis predominantly manifesting tubulointerstitial nephritis: A case report. *SAGE Open Med Case Rep.* 2023 Aug.
  16. Takahashi R, Maruki T, Uchiyama K, Washida N, Shibagaki K, Yanai A, Nakayama T, Hayashi K, Kanda T, Itoh H. Seasonal variation in predialysis systolic blood pressure and cardiovascular events in patients on maintenance hemodialysis. *Hypertens Res.* 2023 Sep;46 (9):2192-220.
  17. Kojima D, Washida N, Uchiyama K, Yoshida-Hama E, Nagasaka T, Kusahana R, Nakayama T, Nagashima K, Sato Y, Morimoto K, Kanda T, Itoh H. The body mass index change is associated with death or hemodialysis transfer in Japanese patients initiating peritoneal dialysis. *Ren Fail.* 2023 Dec;45 (1):2163904.

### 学会・研究会発表 (2023 年春号以降)

1. 竹下純子、成相晴美、周藤幸子、亀井瑠璃子、田邊一明、林健太郎、飛田博史、花田敏子、福田明美、春日みゆき. コロナ禍におけるWebを活用した医療連携・患者支援の試み. 国立大学医療連携・退院支援関連部門連絡協議会. 2023.7、岐阜
2. 遠藤昭博、小田 強、城田欣也、明石晋太郎、山下 晋、内田利彦、太田哲郎、中澤芳夫、田邊一明. 急性冠症候群患者の年齢区分別の比較－島根ACSレジストリー. 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会. 2023.8.4-6、福岡
3. 城田欣也、遠藤昭博、明石晋太郎、内田利彦、太田哲郎、小田 強、中澤芳夫、山下 晋、田邊一明. 島根県におけるSTEMI診療の現状と課題－島根ACSレジストリー. 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会. 2023.8.4-6、福岡
4. 森田祐介、鹿島由史、遠藤昭博、安田 優、藤田 勉、田邊一明. 石灰化病変へのrotablatorにおける呼吸バリアスの効果. 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会. 2023.8.4-6、福岡
5. 佐藤寛大、遠藤昭博、田邊一明、Paul Sorajja. 経カテーテル僧帽弁形成術における適切な僧帽弁逆流の制御と長期予後に対するコアプテーションリザーブの影響. 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会. 2023.8.4-6、福岡
6. 香川雄三、遠藤昭博、山崎誠太、森田祐介、川原 洋、佐藤寛大、田邊一明. 島根ACSレジストリーにおける急性冠症候群の再発患者の臨床的特徴と二次予防目標の達成度について. 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会. 2023.8.4-6、福岡
7. 川原 洋、河野由依、川波由佳、山崎誠太、森田祐介、山口一人、大嶋丈史、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、遠藤昭博、吉富裕之、公受伸之、田邊一明. 心筋梗塞後の致命的な右左シャントを体外式膜型人工肺で救命

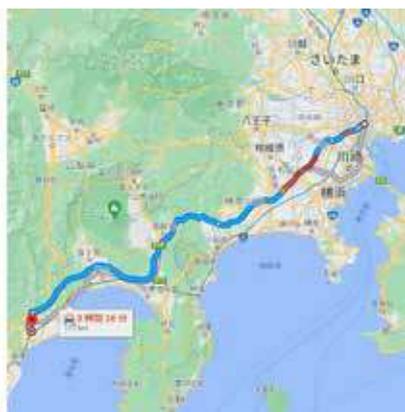
- した1例. 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会. 2023.8.4-6、福岡
8. 安田 優、石口博智、森田祐介、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、遠藤昭博、小田 強、田邊一明. 日本の地方都市における2010年代後半の急性冠症候群の長期予後について. 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会. 2023.8.4-6、福岡
  9. 田邊淳也. 成人期に手術を施行した右肺動脈大動脈起始の一例. 成人先天性心疾患診療ネットワーク会議. 2023.9.30
  10. 佐々木拓志、小田原美穂、津野和美、津枝 忍、本藤由香里、原 歩、嘉戸智啓、山口直人、前田篤慶、中澤芳夫、田邊淳也、遠藤昭博、田邊一明. 島根県江津市での多職種による心不全地域連携の取り組み～低左心機能重症心不全患者の在宅での看取りまで. ハートチームシンポジウム7. 第27回日本心不全学会学術集会. 2023.10.6-8、横浜
  11. 花田真希、大庭雅史、岡 朋大、神田武志. COVID19感染後にIgA血管炎の増悪を認めた一例. 第53回日本腎臓学会西部学術大会. 2023.10.7-8、岡山
  12. 田邊淳也、安田 優、森田祐介、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、公受伸之、遠藤昭博、田邊一明. 高齢心不全患者のBNP推移と転帰の関係. 第129回日本内科学会中国地方会. 2023.10.21 (WEB開催)
  13. 公受伸之、田邊一明. メトホルミンが鼻出血に有効と考えられたオスラー病の1例. 第129回日本内科学会中国地方会. 2023.10.21 (WEB開催)
  14. 尾崎苑香、岡 朋大、花田真希、大庭雅史、神田武志. 用量調整にもかかわらず、超高齢血液透析患者で発症したアシクロビル脳症の1例. 第129回日本内科学会中国地方会. 2023.10.21 (WEB開催)
  15. 小林大悟、神田武志、岡 朋大、花田真希、大庭雅史. 感染性腸炎、COVID19感染を契機として悪化したIgA血管炎の1例. 第129回日本内科学会中国地方会. 2023.10.21 (WEB開催)
  16. 岸本健一、飛田博史、片岡祐俊、尾上正樹、矢崎友隆、福庭暢彦、石村典久、田邊一明、石原俊治. アミオダロンによる薬物性肝障害を呈し、肝不全に至った1例. 第129回日本内科学会中国地方会. 2023.10.21 (WEB開催)
  17. 西 祐未、奥野峰苗、津田洸旬、堀江美香、幡高次郎、天野芳宏、津端由佳里、渡邊伸英、濱口 愛、磯部 威. アミオダロン肺と鑑別を要したアブレーションに伴う左下肺静脈閉塞による肺胞出血の1例. 第129回日本内科学会中国地方会. 2023.10.21 (WEB開催)
  18. 遠藤昭博. 超高齢化社会の急性冠症候群－島根ACSレジストリー－. 第123回日本循環器学会中国地方会. 2023.11.18、米子
  19. 森田祐介、森田純次、遠藤昭博、田邊一明. ペースメーカ植え込み手技中にTorsade de pointesを生じた1例. 第123回日本循環器学会中国地方会. 2023.11.18、米子
  20. 竹内健悟、森田祐介、田邊淳也、山崎誠太、安田 優、川原 洋、香川雄三、山口一人、佐藤寛大、渡邊伸英、吉富裕之、公受伸之、遠藤昭博、田邊一明. 心筋解離を伴う心筋梗塞発症後3年後にCRT-Dを留置した重症心不全の1例. 第123回日本循環器学会中国地方会. 2023.11.18、米子
  21. 山崎誠太、竹内健悟、田邊淳也、安田 優、森田祐介、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、山口一人、吉富裕之、公受伸之、遠藤昭博、田邊一明. 治療方針に悩んだ大動脈弁下狭窄の一例. 第123回日本循環器学会中国地方会. 2023.11.18、米子
  22. 川波由佳、吉富裕之、山崎誠太、森田祐介、川原 洋、香川雄三、大内 武、渡邊伸英、山口一人、遠藤昭博、田邊一明. 悪性リンパ腫と診断し、化学療法が奏功した心臓腫瘍の一例. 第123回日本循環器学会中国地方会. 2023.11.18、米子
  23. 田邊淳也、和田浩巳、末廣章一、山崎誠太、安田 優、森田祐介、川原 洋、香川雄三、佐藤寛大、渡邊伸英、山口一人、公受伸之、遠藤昭博、吉富裕之、山崎和裕、田邊一明. 適切な抗生剤治療にも関わらず心エコー図検査により経時的な疣腫の増大を認めた人工弁感染性心内膜炎の一例. 第123回日本循環器学会中国地方会. 2023.11.18、米子
  24. 急性心不全と脳梗塞を併発し自動車運転再開支援と多職種で就労支援を行った若年DCMの1例. 中尾珠里、今岡 圭、江草典政、奥野智寛、大矢菜穂子、田邊淳也、馬庭壯吉. 日本心臓リハビリテーション学会第9回中国支部地方会. 2023.11.18、米子



第71回日本心臓病学会が9月8日～10日、東京・京王プラザホテルで開催されました。私はダイバーシティ委員会セッション「循環器医療現場の働き方改革～ダイバーシティへの取り組み」で「地方で循環器内科医を育成する」の演題で発表しました。鳥根県は東西に長い、ということを私たちは知っていますが、出雲市から津和野まで道路の距離をGoogleマップで測りますと167kmとなり、学会の開催されている新宿から西へ同じ距離を行くとどのあたりかと見てみますと、神奈川県を超えて静岡市の手前まで行くことがわかります。東京都庁から静岡までの距離を限られた基幹病院で、しかも数人の循環器内科医で守ることの苦労が伝わったのでしょうか。地域の循環器医療確保が課題、女性循環器内科医師の活躍ができる環境が必要、循環器内科医を増やすために「医局は安全基地」としてあることを話しました。女性循環器内科医師の活躍できる環境が必要ということに関しては、女性医師が主治医になる方が男性医師が主治医であるよりも心不全の再入院率が低いというデータがあります (Nakayama A, et al. Circ J 2019;83:1937)。女性医師の方が男性医師

に比べて1)ガイドラインを遵守する、2)患者中心の医療を提供する、3)予防医療を提供する、4)女性患者に対してよりトラブルが少ない、5)患者とのコミュニケーションが良好、という考察がされています。男性医師の反論があるはずですが、女性、男性を問わず、必要とされる医師として活躍できる環境が必要です。

医局からは田邊淳也先生、国立循環器病研究センターの坂本考弘先生が発表で、新宿で行列のできるラーメン屋に連れて行ってもらいました。





2023年10月6日～8日パシフィコ横浜ノースで第27回日本心不全学会が開催されました。この学会は心不全療養指導士や心不全診療に関わる多職種も参加され、賑やかでした。ハートチームシンポジウム7「超高齢者心不全の診療」では済生会江津総合病院・佐々木拓志先生が「島根県江津市での多職種による心不全地域連携の取り組みく低左心機能重症心不全患者の在宅での看取りまで」の演題で発表されました。済生会江津総合病院で精力的に取り組んでおられる心不全診療の地域連携について披露され、江津モデルとして注目されています。末期重症心不全の患者さんを在宅でモデルヒネを使用しながら看取る、というチーム医療は大

学病院でも参考にさせていただきました。佐々木先生は全国学会デビューがシンポジウムでの発表でしたが、立派に発表されました。江津のスタッフもたくさんかけていただき、横浜中華街で楽しい懇親会ができました。

新神戸きたむら内科 循環器・漢方クリニックの北村順先生は教育講演で「心不全の漢方治療」について、今や循環器診療における漢方治療の第一人者として講演されました。大会長の東京慈恵医大・吉村道博先生が「北村先生の言う通りにして、みんなよくなるんだよ」と感激されていました。



## 同門会長挨拶

佐藤内科クリニック 佐藤 秀俊

朝晩に肌寒さを感じるようになってまいりましたが、同門会員、そして医局員の皆様には益々御清栄の事とお慶び申し上げます。新型コロナウイルス感染症が減少傾向にはあるもののインフルエンザとの同時流行で、皆様には変わらず毎日お忙しいことと拝察いたします。どうかご自愛くださいますようお願い申し上げます。

令和5年度の同門会総会を本年11月4日土曜日にホテルニューウエルシティにて無事開催することが出来ました。久しぶりの完全対面形式であり、私も準備段階から試行錯誤でしたが、医局秘書様の多大なるご協力を得て、以前のことを思い出しながら何とか開催いたしました。至らぬ点が多々あったことと思いますが、どうかご容赦の程よろしく願いいたします。またご協力、ご参加いただきました皆様に心より感謝申し上げ



**祝 開院12周年**  
2023年11月9日(木)



げます。今までは心腎血管研究会を行い、その後場所を移動して同門会総会を開催しておりましたが、昨今の製薬会社の取り決めなどにより研究会の後援をしていただくことができなくなり、田邊教授とご相談し、今回より同門会総会の第一部として同門会員による講演、第二部を今までのような食事会にすることといたしました。今回の第一部は田邊教授に座長の労をお取

りいただき、佐藤寛大助教による留学報告を兼ねたMitraClipについてのご講演をしていただきました。コロナ禍で大変な中、単身で渡米されたたくさんの業績を上げて帰国された佐藤寛大先生には大変感服いたしました。これからも母校での更なるご活躍を祈念しております。

また翌日は田邊杯ゴルフコンペが秋晴れのなか、井上慎一副会長のご準備の下に開催されました。遠方からのご参加もあり、笑顔が絶えない楽しいラウンドであったと思います。来年度も盛大な同門会総会および田邊杯ゴルフコンペが開催できるよう準備して参りますので、皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

ます。これからも更に内科学講座内科学第四が発展することを願い、同門会として全力で応援させていただきます。

今後とも私と井上副会長に皆様のお力添えをいただきますようどうかよろしくお願い申し上げます。



## 第28回第四内科田邊杯ゴルフコンペ結果報告

同門会ゴルフ幹事 井上 慎一

令和5年11月5日、第28回田邊杯がいつも大社カントリークラブで開催されました。好天に恵まれ11名の先生方に御参加いただき大いに盛り上がりました。

後藤泰利先生が前人未踏の田邊杯4連覇を成し遂げられました。好不調の波が大きいゴルフにおいて4連勝はまさに偉業です。本当におめでとうございます。ドラコンは梅野哲弘先生、北村順先生、ニアピンは梅野哲弘先生、後藤泰利先生、森田祐介先生、山口直人先生が獲得されました。山口県からはるばる御参加いただいた梅野哲弘先生はドラコン／ニアピンの2賞を獲得、ショットメーカーの実力を発揮されました。

御参加頂いた全ての先生方、今回も貴重な楽しい時



間を皆さんと作ることが出来て感謝申し上げます。次回は令和6年5月19日(日)に開催予定です。多くの先生方とお会いできるのを楽しみにしております。御参加のほどよろしく申し上げます。

順位	競技者名	out	in	GROSS	HDCP	NET
優勝	後藤 泰利	45	41	86	13.2	72.8
準優勝	井上 慎一	43	42	85	12	73
3位	森田 祐介	49	48	97	19.2	77.8
4位	梅野 哲弘	58	50	108	30	78
5位	佐藤 秀俊	54	54	108	30	78
6位	北村 順	49	45	94	15.6	78.4
7位	佐藤 寛大	45	52	97	18	79
8位	山口 直人	52	56	108	28.8	79.2
9位	田邊 一明	58	66	124	44.4	79.6
10位	波多野 淳	76	80	156	50	106
11位	竹内 健悟	87	85	172	50	122



山口先生、竹内先生、森田先生



恰好だけはターガー・ウッズ

# 道

## 編集後記

2023年10月に横浜で開催された心不全学会の企画で元サッカー日本代表監督の岡田武史さんの特別講演がありました。現在はJリーグに所属するFC今治の会長をされています。岡田さんの講演は、サッカーファンとしてはたまらないものでした。特に2度のワールドカップ日本代表監督や国内外のチームの監督として率いたリーダー論は共感するところが多く、参考になりました。悩み抜いたメンバー選考や育成についての経験談はくぐり抜けた困難が多かったからこそその説得力がありました。「人が成長するのはプレッシャー、困難を乗り越えた時、そのプレッシャーがかけられない社会になってしまった」。稲盛和夫さんの言葉に“小善は大悪に似たり、大善は非情に似たり”があります（信念もなく部下に迎合する上司は、一見愛情深いように見えるが、結果として部下をダメにしていく。逆に信念をもって厳しく指導する上司は、けむたいかもしれないが、長い目で見れば部下を大きく成長させる）。しかし、そのプレッシャーをかけたらこちらがアウト。これからの人はどうやって成長するのでしょうか。難しい時代になりました。 (田邊)

島根大学医学部内科学講座内科学第四

循環器内科・腎臓内科

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話 (0853) 20-2206 (医局資料室ダイヤルイン)

Fax (0853) 20-2201 (医局資料室)

循環器内科ホットライン 070-5672-8109

URL: [https://www.med.shimane-u.ac.jp/internal\\_med4/index.html](https://www.med.shimane-u.ac.jp/internal_med4/index.html)